

■ 終了後のアンケートにていただいたご意見を紹介いたします

Q1：本日のトークイベントで印象に残ったことや共感したことがあれば教えてください。

- ・居住していながらあまり知らなかった市内の緑の特性を学ぶことができてよかった。
- ・武蔵野市には緑が多いと言う人が多いということ。緑の多い環境にしたら、求人に応募する人が増えたという話などが印象に残っている。緑の手入れ(だけに限らないが)という共同作業を通して、地域の老若男女の交流が図れるのではないかというのは、その通りだと思った。
- ・竹内先生の広域的な視点(武蔵野市が武蔵野台地にあり、石神井川、神田川、野川流域であること)がとても面白かったです。ディスカッションテーマをその場で取りまとめてもらえてよかったです。会場から集まったテーマにもっと時間を割いてほしかったです。
- ・武蔵野市の立地についてこれまで湧水の視点から考えたことがなかったので、とても新鮮な気づきを得ることができました。
- ・竹内先生から、武蔵野市の緑はグリーンベルトや流域上大切な位置を占めているとのお話は興味深かった。
- ・竹内先生の講話内容はかつて「水の学校(5年間)」で学んだ事と重なり極めて共感的に拝聴しました。水の学校修了生は大凡180名いて「水と緑」のジャンルに関して市の環境政策には理解していると思います。エコ RE ゾートでの環境イベント等とリンクして更なる楽しい活動展開につながることを祈念しています。
- ・雨水浸透が防災や水源の意味で重要であること。生産緑地はエリア指定で飛地でも取得できる(という理解)制度も存在するが、地権者の事情で実現は難しい面もあるということ
- ・エコ re ゾートに、市内に市民参加で雨庭増設できたことは緑+インフラの設置ができた例として、今後も同じような活動が増えていけば良いと思いました。また、西東京市では市民農園の募集で抽選になるほど、候補者が多いと聞いたため、武蔵野市では候補者が少ないことを不思議に、また残念に思いました。農に触れるイベントが開かれていると思いますが、もっと市民に「市内での農」の良さが知れるといいな、と思います。緑視率の効果により、緑が多いと印象を持つ人が多いことは住んでいる立場として嬉しいと思います。
- ・竹内先生からニューヨーク市の tree map によって市内の保有林の管理状況を公開しているという事例が印象的でした。また、同じくディスカッションの際に

市が保有する小さな空き地（すみ切り）を管理したい市民をマッチングする仕組みがあるとおもしろいという意見も興味深かったです！

- ・楽しいイベントをありがとうございました。竹内先生の多岐にわたるみどりの機能のご説明は楽しく拝見いたしました。上野の桜守の「たのしみどり」は特に印象的でした。「果実」「枯れた花」「小枝」「落ち葉」「伐採枝」「染色」「雑草の織物」「堆肥」などで楽しんでいます。収益につなげ、継続できていることは素晴らしいと思いました。武蔵野市でも可能かと考えていました。
- ・「楽しむこと」「参加すること」が緑を継承していくことが重要ということに共感しました。
- ・緑を慈愛する精神文化を市民の共有価値観にしていくこと
- ・緑が防災にも役立っていることがわかりました。

Q 2：武蔵野市の緑に関して「こうなったらいいな」と思うことはありますか。

- ・これだけ人口密度の高い都市にも関わらず、身近な緑に溢れているところが武蔵野市の素晴らしいところだと思います。これからは量ではなく、この武蔵野「らしさ」を感じることでできる緑にこだわっていただきたいなと思います。
- ・市民向けに広報（農業イベント等）を増やしてもいいかもです。たとえば common アプリを通してなど
- ・いくつかの緑地に関わっているが、接道部の花壇を手入れしていると高齢者特に男性から花の名前や雨水タンクについて聞かれることが多い。興味があるのだと思う。まちのあちこちに「雨水タンクがある小さな花壇」ができれば地域交流ができ、緑化や景観だけでなく、防犯やコミュニティの形成につながり担い手にもなる可能性がある。豊かなまちづくりに繋がる。
- ・民地内の高木、大事な地域の財産であり、みなで支え合うしくみがあるとよい。また、温暖化の中、ウォークアブル施策と緑陰空間（街路樹、公園、沿道高木）が連動するとよい。
- ・吉祥寺駅周辺はヒートアイランド現象が起きやすいので、緩和のために緑を増やしてほしいです。竹中工務店の向山さんのお話にもあったように、緑のある場所に人が集まることは証明されていると思うので、プランターや、グリーンカーテンなどがあればいいなと考えます。
- ・みどりを育てることが武蔵野市民として当たり前のプログラムになってほしい。できれば小学校の市民科で「みどりを育てる」というカリキュラムを導入して欲しい。学校の花壇は人手がなくどこも荒れていることが多い。

- ・コミュニティ形成、市民参加の場としての緑、住みたい街武蔵野としての緑であってほしいと思いました。私も武蔵野市に住んでいて幸せだと感じるのは、緑が多くて気持ち安らぐ住環境であること、市民参加の場が豊富にあること、自然の中で多様な人と交流できる喜びがあることです。
- ・今回のキックオフでは、老木管理や屋敷林など大きな土地の緑化がメインの議題とされた印象をもちました。また武蔵野市の市民活動はそれぞれ公園や緑地などを起点にしています。一方で私が関心を持っているのは民有地の緑視率向上です。ここについては市民活動のなかでなにか形にできたらと思います。
- ・緑被率の下げ止まりには安堵感がありますが、見せ方の効果としての「緑視率」のあり方に市民啓発の妙案があるように思います。市内の具体的な優良モデルの宣伝・PRをされるなど希望します。
- ・市域どこでも緑への思いが感じられる風景があること
- ・練馬区の立野公園くらいの規模、機能の公園がいくつかあると良い。割と自由で、広いから迷惑にならないし、水や自然もあり、キッチンカーのカフェくらいあったら、大人も子供も1日過ごせると思う。吉祥寺の西公園も、管理は大変そうだけど、素晴らしいと思います。物価高騰や高齢社会の中で、お金を使わずに豊かに暮らす需要は拡大していると思う。公園に期待しています。
- ・現状の武蔵野市の緑を維持・推進できる具体的なしくみ(雑木林の伐採した木の循環、緑の手入れなど)が確立し円滑に運用されている。
- ・街路樹がほしい。東西に走る道には、夏の酷暑をやわらげるためにも街路樹は必要。道を歩いていて、見て楽しい樹木や花のある家々があるといいと思う。
- ・道路沿いの緑が増えれば木陰ができるので夏に外出しやすくなり助かると思います。
- ・現状だけでなく、5年後10年後を見据えた施策を希望します。

Q3：ご質問があればご記載ください。

- ・緑の基本計画はもちろん市内の緑環境が主眼だと思いますが、隣接する市区町村との連続性などについても考えられているのでしょうか？(生活圏は必ずしも市内だけではない、市縁辺部に住むものとして重視したい視点です)
⇒今回の緑の基本計画の改定において、広域的なつながりの中で市の取組みを考えていくことはポイントになると考えています。
- ・エコ RE ゾートでのイベントに「水と緑」をテーマにしフェスタ・イベントがあったら良いとおもいます。市の取り組み姿勢を問います。

⇒市民とともに市内の緑化推進に取り組んでいくうえで、エコリゾートにおけるイベントで「水と緑」をテーマにしたものを増やしていくことは重要であると考えています。市内で連携を図りながら進めます。

- ・市事業として「緑化」事業の明確な予算化はどうなっていますか。

⇒歳出予算で、令和7年度の緑化公園費は約 16 億 6 千万円となっています。これは、市全体の歳出予算の約 2%になります。

- ・市民参加者からの質問を受け付ける時間がもっとあってもいいかと思いました。

⇒今回のキックオフイベントにおいて、参加者の皆様からの質疑応答の時間が設けられず申し訳ありませんでした。今後のイベント開催においては、検討いたします。

- ・講師の話だけでなく、参加者の発言討論も欲しい。

⇒参加者の皆様との発言討論の時間を設けられず申し訳ありませんでした。今回は、休憩時間にパネルディスカッションで取り上げてほしい話題を参加者の皆様に伺う形といたしました。

- ・今日のPPTの資料をいただくことはできますでしょうか？遠くて見えなかったものがありました。個人的に市の開催趣旨、副市長の「武蔵野市のみどり」をもっとゆっくり伺いたい。

⇒今回資料の配布は行いません。当日の動画を公表いたします。市からの緑の取り組みに関するご説明のお時間が十分に取れず申し訳ありませんでした。引き続き様々な機会を捉えて発信してまいります。

- ・雑木林は循環として、伐採し萌芽更新で育てる循環が必要かと思いますが、伐採した樹木の活用方法は具体的にどのようなやり方がありますでしょうか？できるだけ、樹木が吸収したCO₂はそのままとして、燃やして大気中のCO₂を排出することなく活用できる方法が、脱炭素にも貢献できると考えております。良いアイデアがありましたら、ご教示お願いします。

⇒剪定・伐採による発生材の利活用については、緑の基本計画改定において検討していきたいと考えています。

- ・大木・シンボルツリー2000 計画によって、枝ぶりが見事な木があるため、1本でかなりの癒やしや木陰ができるなどの効果があり、とてもいいと考えますが、木も年をとっていくので、次世代の大木たちが必要だと思います。次世代の大木となる樹木の育成はどこかで行われていますか。

⇒大きく育った地域の緑として様々な緑の役割を担う貴重な存在です。一方で生きものである樹木には寿命があるため適宜植え替えることも検討する必要があります。現在、植え替えをする際の樹木は主に市場に流通する苗木を使っています。市独自で育成する事業は行っていない。